

地球温暖化対策の推進

「リサイクル対策設備投資累計額」を初めて公表しました。廃プラスチック、廃タイヤなど社会や他産業で発生する副産物を製鉄プロセスによりリサイクルする設備対策・投資に関する記述を充実しました。1999年から5年間でこれらのリサイクル対策設備投資累計額は200億円にのびりました。(19ページ)

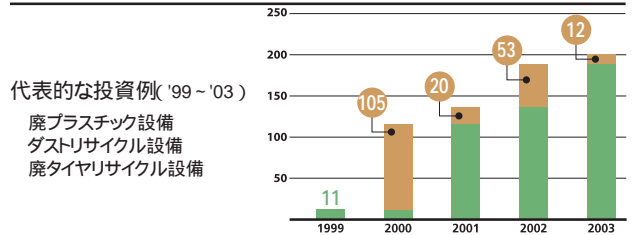


広畑での廃タイヤガス化設備立ち上げにより、日本全国で発生する廃タイヤの約1割以上(12万トン/年)を処理する計画。



2003年度は廃プラスチックを4つの事業所で14万トン再資源化。2004年度は全国の自治体が回収する廃プラスチックの約35%弱にあたる16万トンのリサイクル予定。

リサイクル対策累計投資額(1999~累計) (単位: 億円)

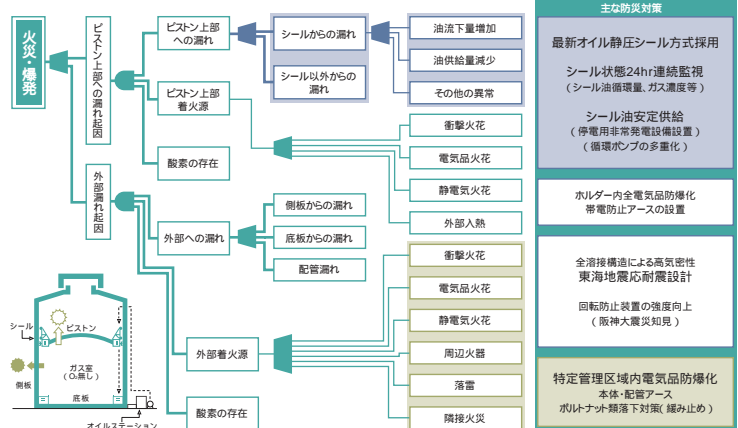


代表的な投資例 '99~'03)
 廃プラスチック設備
 ダストリサイクル設備
 廃タイヤリサイクル設備

防災マネジメントシステムの見直し

名古屋製鉄所ガスホルダー爆発事故を受けて、全社の防災マネジメントシステムを見直しました。新設ガスホルダー設計に際して、プラントの潜在的な危険性を明らかにするための安全工学上の手法であるHAZOP (Hazard and Operability Analysis) スタディを実施し、さらに学識経験者の監修を受けて建設しました。労働安全衛生の取り組みについても、厚生労働省の指針やILOガイドラインにある労働安全衛生システムを活用した取り組みを推進しています。(42ページ)

HAZOPスタディによるガスホルダーの防災対策検討



HAZOP: プラントの安全性を評価する手法の一つで、事故や災害につながる要素を網羅的に想定し、評価・対応する手法。

環境コミュニケーション

- 報告書に対して環境NGOである第三者の意見を掲載し、透明性、信頼性の向上と環境コミュニケーションの充実を図りました。
- 社内外の意見やトピックスを紹介する「鉄学コラム」には、地域社会の行政の方、アルセロール社日本駐在の方や絵本『新・モノ語りシリーズ』の制作者など国内外の方々に登場して頂きました。



「A to Z」地球温暖化に関わるA~Zまでの38のキーワードをわかりやすく説明。(社)日本鉄鋼連盟作成

- 今年の『環境報告書 Sustainability Report-2004』には、間伐材の活用が国内林業の活性化と地球温暖化対策にわずかも貢献できればとの思いで、国産間伐紙を使用しました。

- * 発行部数: 2万部。当社のホームページ「環境経営」にも掲載
- * 英語版も発行の予定



海野みづえ氏
 総研コンサルティング
 「今年度の報告では環境計画の5つの柱に沿ってセクションを明確にし、構成がわかりやすくなりました。今後は各種のスティックホルダーを配慮した活動報告の充実を期待します」